

## 子育ては「親の覚悟」次第?!

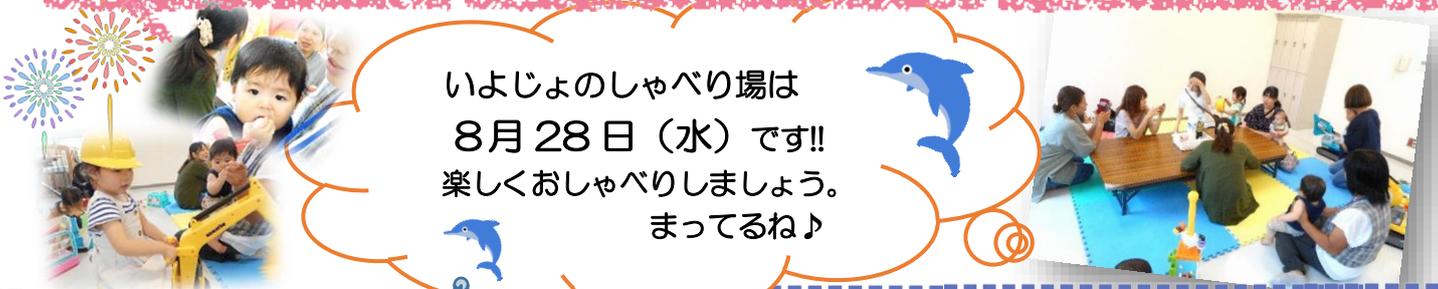
子どもをスーパーマーケットに連れて行ったときに、お菓子を買わないと約束していたのに「買ってー、買ってー」と駄々をこねられたことはありますか?そのような時に親御さんはどうされますか?「一応叱るが、言うこと聞かないので買ってしまおう。」「手を引っ張って連れて帰る」「事前に約束しておいたので、泣いても買わない」などいろいろだと思います。

子育ての中で我慢する、約束を守る、自分の自由にならないことがある、など社会性を育てることはとても大切なことです。そのためにも「かけひきをしない」「買ってあげたり、あげなかつたりしない」「させたり、させなかつたりしない」ことが日々の暮らしのなかでとても大切です。

決めたことは必ず守らせる、そのためにも、どうしてもよいことは決めないことです。それぞれのご家庭の中でルールを決め、親も「覚悟をきめて」子どもに接することです。その決めたことを実行させるためには、決して「叩かない、叱らない、怒鳴らない、譲らない」ことです。

「怒って」「泣いて」「駄々をこねて」「お菓子を買う」と悪循環になり、ますます激しく「怒鳴る」ことになっていませんか?子どもは怒られても買ってくれると思ってしまいます。親御さんが今度こそは!と決心しても、子どもは泣く、駄々をこねるがパワーアップしています。大変ですが、親御さんの覚悟のしどころです。

覚悟を決めてきっぱりと毅然と指示を出しましょう。子どもは親の覚悟をみて指示に従います。その時はすかさず褒めましょう。泣きながらも指示に従えばOK!泣くのはスルーして褒めましょう。  
(H.T)



いよじよのしゃべり場は  
8月28日(水)です!!  
楽しくおしゃべりしましょう。  
まってるね♪

## 適応指導教室「はばたき」

(俳句づくり)

今年度、はばたき教室では毎月俳句づくりを行っています。俳句の学習は小学校でも中学校でも教科書にあり、子どもたちが俳句に関心をもち、慣れ親しむことを目標にしています。

高校生でももちろん学習し、俳句甲子園などに出場し、自分の思いを熱く語り、勝敗を競っています。

しかし、実際に作るとなると、子どもたちの中には俳句づくりに慣れていない子も多く、「何を書けばいいの?」と鉛筆が動かず、頭をひねる子もいます。

そこで、自分の心が動いた瞬間を感じ、子どもたちがその時起きたことを書きとめ、俳句づくりに慣れさせています。また、季節にまつわる「季語」についても考える機会にしています。

特に、小・中学生の頃は、人としての感性が大きく育っていく時期でもあります。体験を通して子どもたちが身の回りのことに関心をもち、成長して行ってほしいと願っています。



## 山岡榮先生殉職記念の碑

西日本豪雨から1年。一日も早い復興を願うばかりですが、今から約90年前に台湾でこんな出来事があったのをご存知ですか。

昭和5年5月9日、台湾の東勢農林専修学校（現在の新社高級中学：日本の高校にあたる）は、授業中にふり出した突然の豪雨のため授業を打ち切りにして生徒を下校させました。しかし、帰路、川を渡ろうとした時に急に水かさが増し、生徒7名と保護者2名が中州に取り残されてしまったのです。それを知るやいなや山岡先生は現地に駆けつけ、救出のため川に飛び込みましたが、たちまち濁流に呑み込まれて行方不明に。現地の村民は2キロにわたって捜索し、下流で遺体が発見されました。享年29歳。日本には妻と二人の子どもがいました。中州にいた9名は夜遅くに全員が無事救出されました。

山岡先生は中山生まれで、この勇気ある行動は台湾の人々を感動させ、現地に殉職の碑を建てて毎年追悼会を行い、教科書にも載っていました。しかし、日本統治の終焉とともにいつの間にか忘れ去られていたのです。

時は流れて平成15年、この碑の存在を知った台湾側は訪日して山岡氏の遺族を訪ねたり、18年には遺族を招いて追悼会を再開したりと、交流が始まりました。中山中学校の生徒が作った紙芝居が新社高級中学に届けられたり、去年の命日には伊予農業高等学校と姉妹校の締結がされたりしています。

中山の盛景寺（じょうけいじ）の門前にはすでに昭和10年に建てられた殉職記念の碑があります。平成28年には生涯を紹介する新たな記念碑も建てられました。生徒を想う教師の気持ちは、時空を超えているのです。

盛景寺を訪ねたら、樹齢700年の菩提樹（県指定天然記念物）もぜひご覧ください。（N.T）



盛景寺の石碑

### 《センター長のつぶやき》

感謝

先日、主任児童委員（12名）の皆様と、子ども総合センターとの合同研修会で意見交換などをさせていただきました。地域の子どものこともよくご存知で、普段から地域の実情をよく把握され、見守っていただいていることに頭が下がりました。

同じように、毎朝子どもたちの登校を見守っておられる皆様にも頭が下がります。一緒に歩いてくださっている方、交差点で「おはようございます」と声をかけてくださっている方など。はにかみながら挨拶を返している子どもたちを見ると、「挨拶がよくできますね」と言ってくれるのも、皆様方のお陰と、感謝の念でいっぱいになります。

この会に、民生児童委員協議会西田会長も参加してくださっていました。親しくお話ができてありがたかったです。会の最後に私は「いつでも子ども総合センターにおいでください」と伝えました。

伊予市にあって、誠意をもって援助にあたっておられる皆様とともに歩んでいける、子ども総合センターでありたいとの思いを深くした大切な時間となりました。感謝。（DOI-G）

### ＜巡回発達相談＞

「巡回相談員のしあわせ」

私たち巡回相談員は、ほぼ1か月に1回、市内18の保育所や幼稚園、認定こども園を巡回しています。可愛い眼差しで駆け寄って「こんにちは」と挨拶をしてくれる子。絵本を毎日借りて帰って、読み聞かせをしているお母さん。1～2歳の子が静かに座って待っている給食準備の時間。「静かに待ててえらいね。すごいすごい！」と褒めると、うれしそうに笑顔で背筋がぴんとする瞬間。この何気ない一コマに感動があります。時々けんかが起こりSO Sを出す場面もありますが、人との関わりを学ぶのも集団での生活があってこそ。人と繋がって生きていくための一歩です。日々愛情を注いでくださっている先生方に感謝です。

そして、巡回の帰りにいつも思うことは、子どもたちに教えられ、元気をもらっていること・・・。子どもは、いてくれるだけで有難い存在なのだという思いで、みんなではぐくんできましよう！と伝えたいのです。（K）

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

（電話）089-989-6226